

2020年3月期 第1四半期  
決算説明電話会議 質疑応答（サマリー）

日時：2019年8月2日（金） 16:30～17:15

説明者：取締役副社長 CFO 宮崎純一

決算資料：[https://www.nissanchem.co.jp/ir\\_info/archive/cf/s2019\\_08\\_02.pdf](https://www.nissanchem.co.jp/ir_info/archive/cf/s2019_08_02.pdf)

■ 全社

**Q1：1Q（4-6月）に関しては、農業化学品や医薬品セグメントでの前倒し出荷が多かった印象を受けた。1Qの実績を踏まえて、上期計画の達成確度についてセグメントごとの強弱感を教えてほしい。**

A1：全体としては、現時点では上期は業績予想に達するかどうかよく読めないという状況です。化学品は想定よりも厳しい状況が続いており、上期の計画達成は難しいと考えています。機能性材料にも下ぶれの可能性があります。ディスプレイは1Qと同様に2Q（7-9月）も計画を上回る順調な出荷を予想していますが、半導体は厳しい状況が続き、無機もオイル&ガス材料が予想外に厳しいと考えています。オイル&ガス材料につきましては、米国顧客側で予算が抑制されており、当社材料の新規採用につながりにくい状況です。農業化学品はおおよそ想定通りと考えております。フルララネルの見通しは当初の計画から変わっておらず、グレースは実需での上ぶれ部分と、前倒しでの上ぶれ部分がありますので、上期でどれくらい残るのか現時点では分かりません。医薬品は前倒しの部分がありますので、現時点での利益の上ぶれ分は調整されていくと見ています。

**Q2：年初計画と比べて固定費がかなり下ぶれているようだが、年間でどれくらいの下ぶれを見込んでいるのか。**

A2：固定費は、計上が後ろ倒しになっている部分や、試験品の有償出荷等で節約されている部分もあるので、現段階では年間の予想は見直ししておりません。ただ当社の傾向としては、計画より固定費が減って着地するケースが多いです。

■ 機能性材料セグメント

**Q3：サンエパーのモード別売上について、特にVAモードの伸びが強いようだが、地域を教えてください。**

A3：VAは、主として中国で予定通りのシェアアップが出来ていると思っております。光IPSの上ぶれも、地域でいうと中国がメインです。

**Q4：サンエバーの前年比の売上増加は、中小型の伸びによるものか。**

**A4：**YOYで見ると、スマホ向けは若干マイナスでした。そのほかのノート PC やモニター向けが増えています。

■農業化学品セグメント

**Q5：フルララネルとグレースシアの前倒し出荷について、詳しく教えてほしい。**

**A5：**フルララネルに関しましては、現時点の上ぶれ分は年内のどこかで調整されると考えているため、年間の予想は変えておりません。グレースシアに関しましては、前倒しと上ぶれの両方の要素がありまして、1Qの上ぶれは2Qからの前倒しが主と見ていますが、年間で見ても上ぶれ傾向にあります。グレースシアは製造に時間がかかるため、現在生産が販売に追いついていない状況です。

**Q6：ブラベクトの在庫調整の進捗について教えてほしい。**

**A6：**在庫調整は、まだ続いていると見ています。MSD\*社の生産および在庫調整スケジュールの詳細は、当社は把握しておりません。

**Q7：日産化学のフルララネルの下期計画と比較して、MSD社の足もとの販売はYOYでそこまで大きく伸びていない。フルララネルの売り上げについて、今後、下方修正はあり得るのか。**

**A7：**当社の出荷量とMSD社の販売量は必ずしも相関しません。特に四半期や半期など一年以下の短いスパンで見ってしまうと、彼らの生産や販売のタイミングと、当社の売上計上のタイミングには大きなずれが生じる傾向にあります。

**Q8：ラウンドアップの下ぶれに関して、アメリカでの訴訟の影響はないのか。**

**A8：**当社が販売している日本国内につきましては、訴訟の影響はありません。下ぶれの要因はALでして、これはALシリーズ内での製品ミックスの影響です。ALの顧客数を増やすために、シリーズの中でも安価なAL(1.2L)の拡販に注力したため、結果として売上高は下ぶれとなりました。

\*MSD: 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門 MSD Animal Health 社の略称

以上